

保育園の自己分析

株式会社LateralKids もりのなかま保育園 松ノ木園 園

保育所保育指針には、「保育所は、保育の質の向上を図るため、保育の計画の展開や保育士等の自己評価を踏まえ、当該保育所の保育の内容等について、自ら評価を行い、その結果を公表するよう努めなければならない。」ことが明記されています。LateralKidsでは、上記の件を実施するにあたり、「評価」とは第三者が行うものであるため、自ら行うものを【自己分析】と位置づけ実施いたしました。

保育園としての自己分析について、分析の項目、視点、方法および結果を下記のとおり公表するものとします。

〈 分析について 〉

分析にあたっては、以下のような基準で全職員で行い、合計をして平均を出しています。

100%・・・かなりできている

70%・・・ほぼできている

40%・・・あまりできていない

10%・・・ほとんどできていない

1. 保育の基本的理念と実践に係る観点

項 目	内 容
保育理念	LateralKidsの保育理念・方針・目標を職員が理解し、実践している
子どもの最善の利益の考慮	子どもの最善の利益を考慮して、最もふさわしい生活の場になることを理解している 子ども一人一人の人格を尊重し、子どもが自分の意見や思いなどを保育者などの大人にはっきり伝えることができるよう配慮している
子どもの理解	各年齢の心身の発達段階を理解している 子どもの行動のみにとらわれず、その奥にある背景を探り、気持ちに寄り添ったり、子どもの立場にたって考えるよう努めている 子ども一人一人の個性や成長のペースを尊重し、ありのままを受け止めて保育にあたっている 子どもの置かれている家庭環境等の理解に努め、一人一人に応じた働きかけを心がけている
保育の計画及び評価	全体的な計画は、保育の連続性を考え、全年齢の発達の見通しが持てるよう立案されている 日常の保育を通して、子どもの思いや気持ちを汲み取りながら指導計画に反映させている 各年齢の子どもの発達状況に即した指導計画となっている 日々の保育の連続性や季節の変化を考慮して、指導計画を立案している 子どもが主体的に活動できるよう環境設定をしている 長時間にわたる保育のための環境が整備され、保育の内容や方法に配慮している 子どもの実態や状況の変化に応じて、柔軟に指導計画の見直しや改善を行っている 指導計画の評価反省を行い、その結果を次の指導計画に活かし保育の改善に努めている

園全体の分析

- ・ コロナの影響もあり、諦めてしまった行事もあり、だいたい計画通り行うことが出来たが、何か達成感が感じられなかった。
- ・ 保護者参加のものがほとんどできなかった為、保護者の声に応える機会が少なかったことが大きな反省点である。
- ・ 子どもの日々の姿を紹介する事がほとんどできなかった。

来年度の課題

- ・ 丁寧でゆるやかに流れるような保育を実践し、子どもたちの今を大事にしていく。
- ・ クラスは分かれてはいるが、同じ流れと保育観を持ち、園の子どもをみんなで見守るという気持ちを常に持って日々の保育に携わる。
- ・ 環境とあそびにこだわり、子どもが来たくなる部屋作りを目指す。
- ・ 子どもに携わる全ての方々と情報を共有し、子どもひとり一人の「今」を大事にし、認め、温かく見守る。
- ・ コロナだからと諦めず、出来る事を考えに考え、遂行し、子どもも大人も園に来る人皆がほっとするような園を創っていく。子どもたちが園でどのように過ごしているのかを写真や動画などで定期的に紹介していく。

今後は、自己分析で見つかった課題の解決に向けて努力をしていきます。

ご意見などありましたら、どうぞお知らせください。保育の参考にさせていただきます。